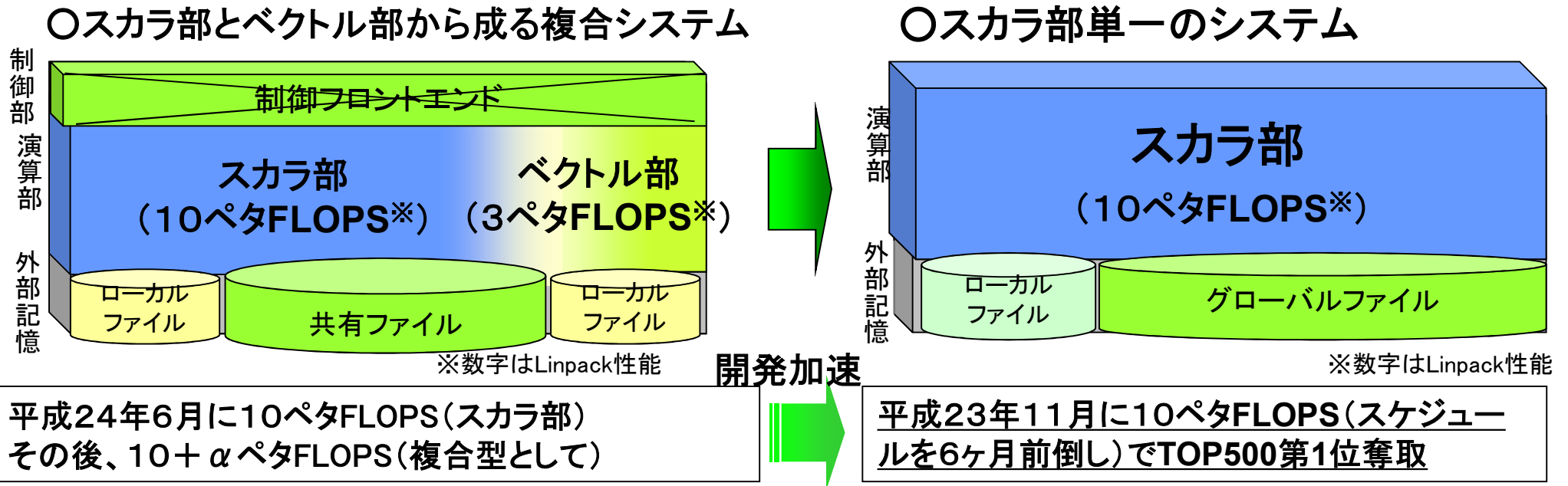


參考資料

中間評価を踏まえたシステム構成変更のポイント



※その後の事業仕分けの評価等を踏まえ、開発加速は取止めている。

<予算計画の見直し>

○ベクトル部の開発中止(H22年度・H23年度) Δ 124億円

※ H21年度予算28億円については、NECに支払っていない。

○利便性向上※のため必要な経費の増(H22年度・平成23年度合計) 90億円

⇒インターコネク(スパコン内部のネットワーク)性能を倍増(ネットワーク用のチップ数を2倍、通信用のケーブル本数を3倍に増設等)

※ 具体的には、①アプリケーションの実効性能の向上、②耐故障性の向上、③ユーザーが記載するプログラムの簡略化

○スカラ部の開発を加速するため必要な経費の増(H22年度・平成23年度合計) 110億円 → 取止め

⇒システム製造設備の増強等(回路パターン焼付け装置、加熱試験装置、基板への部品取付装置等を増設(ラインの増設))

(参考) スカラ型: 大きなデータを細分化して処理(ナノデバイスの構造解析等が得意)

ベクトル型: 大きなデータをまとめて処理(大気の大循環等の計算が得意)



計算科学振興財団 (FOCUS)の概要

■ 設立趣旨

スーパーコンピュータ「京」の活用を図るため、研究開発や産業利用の推進ならびに広く普及啓発を行うことにより、計算科学分野の振興と産業経済の発展に寄与
H20年1月 兵庫県、神戸市、神戸商工会議所の出資により財団を設立
H25年4月 公益財団法人に移行

■ 役員等

理事長・秋山喜久(関西広域連合協議会会長)
ほか理事11名、監事2名、評議員10名

■ 事業概要

スーパーコンピュータ「京」をはじめとするスーパーコンピュータの産業利用促進や研究支援、普及啓発など、計算科学分野の振興のために、下記の事業を実施

◆ 普及・啓発活動

スパコン産業利用シンポジウムやトップセミナーを主催したほか、関係団体との共催セミナーも精力的に実施

クラウドコンピューティング展 等の展示会に出展したほか、「京」やFOCUSスパコン活用事例を盛り込んだ利用事例集を作成

◆ FOCUSスパコンを活用した企業の技術高度化支援

JST地域産学官共同研究拠点整備事業で整備(約22TFLOPS)

産業界のスパコン高度利用のための教習所

産業界HPC利用者のすそ野拡大装置

共用状況・・・98社、109課題(H25.3.31現在)

◆ スパコン講習会等・・・67回・468人(H24年度実績)

◆ HPCI運営委託事業を実施

アクセスポイント神戸の整備(利用端末、ネットワーク機器等を完備)

利用支援事業の実施(「京」向きチューニング講習会開催等)

◆ 企業訪問・・・201社・506回(H24年度実績)

「京」やFOCUSスパコンの潜在需要を開拓するとともに、個別企業の課題解決に貢献するため、訪問ヒアリングを実施



マネジメント層を対象とする「トップセミナー」



産業界向けのエントリーマシンFOCUSスパコン



様々なスパコン向き講習会を開催